試験研究事例	重点研究	マイクロナノバブルによる 水産有用魚介類の成長促進技術の開発

【研究の背景】

アワビ，鹿島灘ハマグリは，ともに茨城県の漁業で漁獲される重要貝類となっていますが，現在，資源が減少しているため，漁業者からの資源増殖の要望が高まっています。その対策として種苗生産により育成した稚貝の放流が行われていますが，育成中の生存率が低く生産が不安定であるため，高効率生産と稚貝での死滅低減が求められています。

【研究の目的】

二枚貝の養殖場において実績のあるマイクロナノバブルの技術を導入することで，貝の生理活性を高め，稚貝の生存率の向上と生産の安定化・効率化を図ります。

【研究の内容】

【成果の用途・実用化】

マイクロナノバブルを用いた種苗生産技術が開発されることにより，有用貝類の生産の効率化が図られ，より優良な種苗を放流すること可能となり，栽培漁業や貝類の資源増大の技術推進に大きく貢献することができます。このほかにもマイクロバブルは食品，環境，医療など様々な工業分野への応用が期待されています。

基礎となった事業	平成 22 年度　試験研究指導費（B 経費） テーマ名「マイクロナノバブルによる水産有用魚介類の成長促進技術の開発」
担当部門	技術融合部門　主　任　青木　邦知　tel：029-293-7482 先端技術部門　技　師　岩澤　健太